

自助・共助の力を身につけましょう！

～身近な物を使って出来る救出方法～

はじめに…

震災時、市民による早期救出の必要性

重量物や倒壊建物などに挟まれてしまった場合、多くの災害

1 安全な服装、準備

倒壊現場では

- 落下、崩壊物の危険性
- 鋭利な破損物の散在（ガラス 木片 釘 等）
- 断線した電線
- ガスの漏洩

などが考えられる為、身を守るものを付けて活動して下さい。人を助けるには自分自身の安全確保が第一です。



手袋	ヘルメット
マスク	ゴーグル 長靴など



長袖、長ズボン着用

2 倒壊現場の確認

- 挟まれている人の有無
- ガス漏れ、電気配線、ガラス破片等を可能な限り排除します。
- 救出活動中、余震などによる二次災害の危険から身を守るため安全なスペースを確保しましょう。

• 挟まれている被災者を発見



• 安全スペースの確保



3 挟まれている人の確認

声をかけ、安心感を与えましょう

- 負傷の有無と程度
 - 挟まれている人の人数
 - 挟まれてからの経過時間
- などを確認しましょう

4 安全管理員の配置および資機材準備

作業中は視野が狭くなり非常に危険になります。全体を監視する安全管理員をつけ周囲を見張るようにしましょう。

資機材を準備する際は、挟まれている人の位置関係、倒壊物を動かした時のバランス、作業スペースの状態などを考慮しましょう。

また、作業スペースを確保する場合は人力で簡易に動かせるものから順番に除去していきましょう。

障害物を取り除いたことで新たに危険が生じないようにロープなどで支持、固定する必要性もあります。

◦ 安全管理員の配置



5 救出作業

作業は、てこの原理を利用して、救出スペースを作り、進めていきます。
・てこの支点として使う当て木は丈夫で安定感のあるものを使用して下さい。



※もし、てことなるバール等がない場合は(長さのある、折れない、曲がらないもの)を調達して下さい



※またある程度の間隙があれば、ジャッキ等を利用していきましょう。

→パンタグラフジャッキ
(ほとんどの自動車に積載しています。)

◦ くさびを打ちましょう

くさびは、パール操作を誤っても安定して重量物を持ち上げていくための安全補助具として使います。

カマセ木（上） くさび（下）



※くさびがない場合は代用品として雑誌を一冊ずつ差し込んで使う方法もあります。

◦ くさびを差し込みます



隙間が足りなければカマセ木を差し込んで高さを出し、更にくさびを使用
していきましょう。

※重量物の動揺に注意し差し込んで下さい。

- てこを使ってカマセ木を差し込みます。



- さらにくさびを差し込み隙間を広げていきます



救出するための隙間は必要以上に広げないで下さい。
広げることで不安定になり新たに倒壊の危険が生じる場合があります。

◦ 救出開始

いよいよ救出開始です。

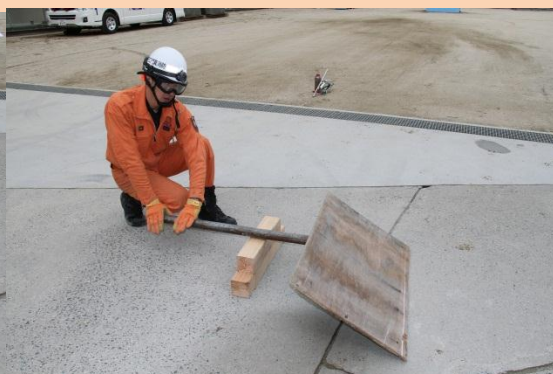
しかし、再度、隙間が崩れないか、確認するとともに周囲の安全を確認して下さい。



救出の際、挟まれた人を無理に引き出そうとせず、様子を見ながら救出して下さい。
また、絶えず声をかけ、負傷の状態を確認しながら救出します。



(悪い例×)



(良い例○)

※重量物を持ち上げる時は跳ね返りの危険性があるのでボール等を握らず、
ボールの可動範囲に身体を入れないように注意します。

⑥ 救出完了後

救出後は移動が可能であれば、出来るだけ安全な場所に搬送してから
応急処置を行う。

※救出現場が新たに崩れないようにカマセ木、ロープなどで補強！！
更に、人が入らないように処置しておく（警戒テープをはる）

実際の災害では殆どの状況において、これらの各動作を応用し、対応していかなければならないので注意願います。

この解説での内容を通し、安全且つ臨機応変に対応していけるように心がけていただければ幸いです。

